

大竹市事業評価監視委員会議事録

日 時：平成 15 年 10 月 2 日(木) 16:00～17:30

場 所：大竹市役所 4階第2会議室

【対象事業名】大竹駅東口広場(市道駅小島新開線外2路線)整備事業

1. 大竹市長あいさつ 市長

2. 委員長あいさつ 谷岡委員長

3. 事業概要等の説明 都市計画課長

○ チェックリストの説明

○ 市対応方針(案)の説明

○ 質疑応答(事業概要について)

C 委員 当該事業以外に、現在、東西を結ぶ地下道は、どこにあるのか。

都市計画課 当該地から約300m広島寄り、約200m岩国寄りの、計2箇所ある。

C 委員 現在、2箇所あるのに、更にもう1箇所自由通路を造るというメリットは何か。

都市計画課 駅を1つの核として、なるべく中心に近いところに東西間を結ぶ通路を作るということである。現在あるのは、どちらも地下道である。

C 委員 それは、車も通れるのか。

委員長 広島寄りの方はバイクも通れるが、岩国寄りの方はバイクは通れない。自転車は押して通る。岩国寄りの地下道には平面交差が一緒にある。

C 委員 新たに作る自由通路は、人だけが通れるのか。

都市計画課 自転車とバイクも通れる。

D 委員 この事業は、駅前の都市開発計画と駅裏の都市開発計画をつなぐ、という効果があった。しかし、両開発計画とも難しい状況になっている。両方ができて、初めてこの事業が有効であったと思う。

市長 この委員会で「継続」ということになれば、駅前広場を広場というだけではなく、もっと有効に活用できる手段がないか、修正をかけながらやらなければならないと思っている。この事業を通して、大竹のまちづくりを考えていきたい。

D 委員 都市計画を変更または凍結することはできるのか。

都市計画課 機能などを変えたり、位置をずらしたり、機能を阻害しない形での変更は可能である。都市計画を凍結するという事は、認可が切れるという状態である。この場合、既に受けた国庫補助金を返還することになる。従って、都市計画の廃止は、ほとんどないのが現状である。

委員長 JRは民間企業になったのだから、お客のための利便性を図ることがJRの責務ではないのか。橋を伸ばして、東口に改札を作れば、東口の利便性がかなり出てくる。そうすれば、東口広場を活用できる。自由通路とJRをもっと関連付けることはできないのか。

都市計画課 鉄道で遮断された新町地区と西栄地区に、バイパスを設けるということが都市計画決定の原点であり、橋上駅というのは、状況としては認知されていないが、JRと協議は行っている。また、聞いたところによると、JRには東口に改札を作ると

いう計画はない。

○ 質疑応答(チェックリストについて)

B 委員 費用便益比は、平成6年に6.00であったのが、平成15年には3.66になっている。仮に、平成6年に3.66であったら、この事業はようになっていたのか。

都市計画課 通常、費用よりも1.5倍の便益があるということになると、公共事業としては、実施をしても便益があるという判断になるため、事業を実施したと思われる。

B 委員 それでは、現時点での費用対効果を分析すると、3倍というのは1.5倍を大幅に超えている、という認識か。

都市計画課 そうです。

市長 再評価で事業を継続することになった場合は、今までの考え方とは違う新たな考え方を導入し、事業を推進していくために考えていかなければならない。

C 委員 自由通路ができたと仮定して、100mの橋を向こうまで渡って改札に入ることになるが、皆が使うのだろうか。特に年を取った方が上に上がって、そこを80mも歩くのか。皆が今までどおりのところを通るのであれば、作った効果はどこにあるのか、という問題が起きないかと危惧している。

E 委員 仮に通路ができて、自転車の人は恐らくこの通路を通らないのではないかと。というのは、自転車を押して渡らなければならない、という構造になっているからである。この自由通路を通らずに、他の踏切や地下道を通って、東側から西側へ行く人の方が多いのではないかと。こういうことが、費用対効果の中で計算されているのか疑問である。

A 委員 広島市内にも歩道橋がたくさんあるが、歩いている人を見たことがない。数字としては確かに3倍と出ているが、実際の利用人口は少ないのではないかと。いろんなデータを見ると、平面を通る人の方が多い、下を通る人は少ない。上に上がる人は、もっと少ないと思う。

都市計画課 今の状況では、かなり周囲を回って駅に行くことになるため、対象地区の利用者を特化している。今回、チェックリストを作成するために、国土交通省のマニュアルを使ったが、対象者が通らないという数値がマニュアルの中にはなく、現実には判断ができない。

○ 質疑応答(市対応方針(案)について)

E 委員 行政のトップとしては、計画は実行していくという責任があるが、見極めをつけたら、やめるという決断をするのも行政の長の重大な責任であると思う。

市長 やる勇氣より、やめる勇氣の方が大事であると思う。しかし、当該事業は、効果があるという数字が出ている。その中で、やめるということであれば、逆にこの数字に対する妥当性がないという説明をしなければならない。

○ 当該事業に対する意見

委員長 JRの問題などがあるが、もっと検討してはどうか。裏駅につなぐことによって、開発できるチャンスはあると思う。何とかいい方法を努力しながら模索して、進めていってほしい。

D 委員 JRにアプローチして、方法を考えたらどうか。駅の近くなので立地条件は良い。今は車の時代であるが、駅があると便利なので、駅周辺の開発などを検討する方法もあるのではないかと。

B 委員 もっと利便性が考えられてもよいのではないかと、ということで、この事業については、継続がよいのではないかと。ただ、いつ、どのようにやるかについては、見直しがあってよいのではないかと。

委員 長 それでは、この事業は継続ということで、もっと知恵を出し合って、皆が「住んでみたいな」と思うような街をつくってほしいと思う。

委員 長 ()
(事業を継続していくことに意義がない旨を決する。)